

令和4年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

第1回 介護保険に関する会議 会議録

1 開催日時

令和5年2月9日(木) 18:30~20:00

2 開催場所

北九州市役所本庁舎 3階大集会室

3 出席者等

(1)構成員(10名/12名)

井上構成員、木戸構成員、下河邊構成員、坪根構成員、  
中野構成員、野村構成員、橋元構成員、原田構成員、松田構成員、  
丸林構成員

(2)事務局

保健福祉局地域福祉部長、地域リハビリテーション推進課長、  
認知症支援・介護予防センター所長、長寿社会対策課長、  
地域支援担当課長、介護保険課長、介護サービス担当課長、  
先進的介護システム推進室次長、健康推進課長

4 議事内容

(1)第2次北九州市いきいき長寿プランの推進について 資料1

(2)介護保険の実施状況について

①第1号被保険者等の状況について 資料2

②施設整備計画の進捗状況について 資料3

(3)先進的介護「北九州モデル」の推進について 資料4

(4)今後の介護実習・普及センターの機能・役割について 資料5

(5)その他

議事(1)第2次北九州市いきいき長寿プランの推進について… **資料1**

(事務局)議事(1)について資料1に沿って説明

(代表)今の説明に対して何か構成員の中でご質問等ございませんか。

(構成員)外国人の介護人材、介護サービス事業者経営の研修、或いは次世代に向けた介護従事者の魅力発信、先進的介護北九州モデルの発展といった介護事業者に関することを知りたいです。

(代表)人材不足に伴う外国人介護従事者の状況について説明をお願いします。

(事務局)令和4年4月時点での把握状況では、市内に196名の外国人の方が介護に従事しています。技能実習の方が一番多く、国別ではインドネシアの方が一番多い状況です。

(代表)他にご意見等はございますか。

(構成員)おむつ給付サービスの事業の継続についての検討は、どんな状況ですか。

(事務局)現在、地域支援事業の中の任意事業という形で事業を行っていますが、国でも暫定的な措置となっています。第9期の介護保険事業計画では財源の確保あるいは上限額といった点で見直しが必要な課題と考えています。

(構成員)退院直後の配食サービスでケアプラン提出後でないと利用できないタイムラグが生じている現状があります。手続きを少し簡素化して頂けるとありがたいです。

また、令和6年3月までが策定義務となっているBCPの促進や個別避難計画についても目標を定めていただきたいと思います。

(事務局)配食サービスでのタイムラグについては、なるべく縮まるよう契約者と連携

して努力したいと考えています。

BCPについては、現在全ての事業者の皆様がBCP計画を作れるよう研修を毎年度開催して支援を行っています。また、個別避難計画については、危機管理室と実施していますが、福祉の専門家の方たちと連携しながら取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

## 議事(2)介護保険の実施状況について

### ①第1号被保険者等の状況について… 資料2

(代表)ただいまの報告に対して、何かご質問等ありませんか。

(構成員)サービスの利用状況について、施設に入居していた方が、コロナ禍で面会ができなくなったため、在宅サービスを選ぶようになり、在宅サービスの利用が増えた傾向があるのでしょうか。在宅サービスを充実させていく必要があるのではないかと感じています。

(事務局)傾向としましては、在宅でサービスを使われてる方が伸びている状況です。施設居住系のサービスが、今後増える状況なのか、一時的なのかは注視していく必要があると思います。来年度、介護保険事業計画をつくる際に状況を確認して、そういうものを加味していきたいと思っています。

(構成員)やはり回復期病棟でも、入院していると家族と会えないので早く帰りたいという意見を言われる方が多いようです。私どもの施設でも、早く自宅に帰りたいという方が、この1年で増えたように感じています。

(構成員)特別養護老人ホームの実感として、コロナ禍の初めのころとは異なり、感染者が増えた現在では、施設入所を控えたいというケースはありません。ご家族とのコミュニケーションを、幹部や入所に関わる責任者の人たちがどうフォローしていくかが、ものすごく大事になっています。そこをある程度重視していれば、施設入所にそれほど不安は抱かないんじゃないかなと思います。この施設入所の減少が、面会が出来ないことから来ているとは考えづらいと思っています。

(事務局) コロナ禍に関してまだ具体的な実証データを取るという状況になっておりませんので、確たることを申し上げることはできません。この2年半ぐらいの間、施設の皆様には高齢者の命を守るというところで大変頑張って頂いたことに、感謝を申し上げているところでございます。

8月時点ではクラスター等によって、数字的に少し影響が出ているかもしれないと思いますが、施設の方は、クラスターに対してできる限りの取り組みをしていたらと思います。今後、そういった積み重なったノウハウを活かしていけるように、BCPの取り組みも併せて啓発をしていければいいと思います。

(代表) 北九州市のデータと全国のデータが出されていますが、単純に比較して議論するわけにはいかないと思いますが、何かコメントがありましたら、ご示唆いただければと思います。

(構成員) 北九州市の特徴は、どちらかというと施設サービスの利用が多くて、在宅サービスの利用が少ないという特徴があります。個人的にはこのままで保険が維持できるのかが、一番心配です。

(代表) 北九州市の高齢化率は31.3%、しかし、我々の持っているデータでは、介護サービスを受ける人の割合は、65歳から74歳では5.5%、75歳から84歳では21.7%、85歳以上が65%である等、65歳以上を一括りにはできません。

65歳以上の1号被保険者でみると、北九州市は、施設サービスの利用者よりも在宅サービスの利用者が多いものの、全国比較で見れば、まだ施設サービスの利用者が多い傾向があります。これは、介護施設整備計画の進捗状況でもかかわってくると思いますので、介護施設計画の進捗状況について説明してもらえますか。

## 議事(2)介護保険の実施状況について

### ②施設整備計画の進捗状況について… 資料3

(事務局) 介護施設計画の進捗状況を資料3に沿って説明

(代表)施設整備計画の進捗状況については、目標に達していないところもあります。質問はありませんか。

(構成員)いま独自集計中の調査では、特別養護老人ホームの例では、入所待機者は2,000人ですが、実際に入所した人の割合は3割です。入院療養中だとか居宅生活を続けたいという理由で、実際に施設入所を案内しても、入所しない例もあつて。

実態は、かなり待機者が入所できるので、これ以上増床してもいいのかという問題があります。一方で、人材確保がうまくできないために空床になっている施設もあります。特別養護老人ホームの事業経営としても厳しい状況があるので、本当に増床してもいいのか、について次の介護保険事業計画を立てる時にもう一度議論しないといけないと思っています。

(代表)私どもが持っているデータでは、特養や老健のベッドが100%稼働しているかと言えば、そうではない状況である。北九州市で居宅介護サービス等を含めてサービスの繋がりがうまくいっているかどうかという検証をしないといけないということです。それでは、議題の3番目、先進的介護「北九州モデル」の推進について説明をお願いします。

### 議事(3)先進的介護「北九州モデル」の推進について… 資料4

(事務局)先進的介護「北九州モデル」の推進について資料4に沿って説明

(代表)北九州市が、介護ロボット特区と言われて、もうすでに5年6年経とうとしております。先進的介護という今回のプログラムもそうですが、ロボットの導入、使用する人材の教育、養成、そしてロボット自体の評価、改良、そして今後の見通しというような点で、何か質問等ありますか。

(構成員)北九州市は、ロボットの導入が進んでいる方だと思います。人材確保の困難さから、導入を進めていかないと、将来大変なことになる危惧は十分ある。ただ、法

人経営者が覚悟しているかどうかというところちょっと薄い部分がある。経営者の意識改革や人材確保について市役所と一緒に連携して取り組んでいく必要があります。

(構成員)介護する側を助けてくれるようなロボットは、どんなのがありますか。AI等を使って見回りをしてくれるロボット等はあるのでしょうか。

(事務局)見守りセンサーの活用が一番進んでいると思います。ほかに、利用者に対して使う移乗支援のロボットや、職員が着るアシストスーツのような活用が進んでいると思います。また、AIを搭載したカメラによる見守りセンサーもありますが、高価です。施設のニーズがあるところに導入を支援するような形で進めています。

(代表)在宅支援等に向けた介護ロボット等っていうのが進んでいこうとしています。他に意見はありませんか。

(構成員)AIカメラによる見守りセンサーが利用者の居室内にあると、プライベート等の問題はどうか、ちょっとわからない点があります。

(事務局)カメラでも映像が映るものだけではなく、赤外線を当ててシルエットが映る見守り機器もあり、施設のニーズに合わせて支援できる技術が揃ってきたように思っています。

(代表)今後、先進的介護「北九州モデル」をどう具現化して、広げていくかというようなこともテーマにありますので、議題4、介護実習普及センターの機能・役割について説明をお願いします。

#### 議事(4)今後の介護実習・普及センターの機能・役割について… 資料5

(事務局)今後の介護実習・普及センターの機能・役割について資料5に沿って説明

(事務局)今後、在宅介護に向けたロボットの提案ということを考えると、福祉用具と介護ロボットで相談窓口が異なっていたら不便です。同じ場所で相談を受けられ、

展示も行うようにして、展示にとどまらず、介護の未来モデルを提案するモデルルームのようなものに作り直していきたいと考えています。

(構成員) こういうセンターを作るのはすごくいいことだと思います。ただ、利用者が小倉北区・南区に偏ってしまい、八幡からは行きにくいですね。デイサービスやデイケア、リハ病院等でいいんですが、例えばセンターの下にサテライトを設けてそれぞれの地域で取り組める場所を作っていくような工夫をしてもらえたらいいと思います。北九州の介護ロボットの取組はいいと思いますが、企業と提携して、排泄や入浴等の介護事業所の作業行程の見直しなどを研究してもいいと思いました。北九州市は、他の地域に比べて、在宅サービスの利用は少ないです。一方で持ち家のかたも多いので、在宅介護に取り組みやすいように市民へ啓発も含めて取り組んでいくことを検討していただきたいです。

(構成員) 地域によっては、介護ロボットを知らない状況もあります。介護事業者だけでなく、地域の人たちにも介護ロボットを知っていただく必要があると思いました。

(代表) 我々も、誤解のないように理解しておかないといけません。北九州市がロボット特区になったとき、いわゆるロボットをPRする場所を作ることが柱の絵になっています。そこは民間ベンチャー企業などが集まって議論しながらデモンストレーションもできるし、その中に専門職だけではなく、利用者等も一緒に学ぶ場所をつくるという構想があったと思います。今回、介護実習・普及センターが介護ロボット等導入支援・普及促進センターに置き換わるというのではないという理解ですよ。

(事務局) 今、代表に説明いただいた通りでございます。

(構成員) ロボットといえば通常、対象者を観察すると同時に身体を起こしてくれる等、何か行動してくれるようなものを想定するんですが、まだそのレベルではないと思います。だから一般の人に、「介護ロボット」といっても、皆さんピンとこないんじゃないでしょうか。確かに現場では、見守り機能だけでも役立つ面はあると思います。けれども、利用者や家族の方からすれば、ロボットといえば、人間の代わりにいろいろやってくれるようなイメージを持ちます。だから、「現段階では、ロボットといってもこの

程度ではありますが、それでもすごく役に立つんですよ」ということを、PRした方がいいと思います。介護ロボットの開発は、その過程で使い物にならず、裁判に至る事例もある等、ソフトを作ることが難しいことはわかります。しかし、一般の人はロボットが全部やってくれるイメージを持つと思うので、今の段階でしっかり役に立つことをPRしてはどうでしょうか。

(代表)今後のスケジュールはどのようなふうにお考えですか。

(事務局)令和6年の頭には、次期の指定管理者が決まりまして、令和6年の4月から新しいセンターとして出発したいということです。

(代表)この件に関しては、概略的な方向性について説明し、提案を行ったという理解でいいですね。提案したということで決定したということではありません。他に発言等ありませんか。

(構成員)介護保険事業計画の中の公募に関して、在宅サービスを支える大事な仕組みの小規模多機能型居宅介護等の、再公募を行わないのかということですね。先ほどの話に出ましたが、北九州市は介護施設が多すぎるという話なので、在宅サービスを支える仕組みもしっかりと作って頂きたいと思います。そういう在宅支援全体を支える仕組みに力を入れるため、再公募を行っても構わないと思います。

#### **議事(5)その他 介護保険制度の見直しに関する意見(概要)**

(代表)次年度は、介護報酬や診療報酬等の同時改定があります。参考資料は、それに向けて昨年12月20日に議論されている内容です。今年の夏までに、結論を出さないといけない項目も幾つか定義されており、決定を急がないといけない課題や見直さないといけない課題等がここに紹介されています。

(代表)これもちまして、介護保険に関する会議を閉会したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。